

## 【クラブ活動報告】

## ウクライナ避難女性が例会で卓話

和歌山城南ロータリークラブ

## 【読売新聞オンライン】から

10月6日(木)、和歌山市内のホテルで行われた和歌山城南ロータリークラブの例会で、初めてゲスト卓話。会員約30人を前に英語でスピーチを行いました。



ロシアのウクライナ侵略が続く中、戦火を逃れ、和歌山市で新生活を送るアレクサンドラ・ニコリッチさん(23)。アレクサンドラさんはウクライナ南東部ザポリージャ州の出身で、両親と3人で暮らしながら大学院で英語とペルシャ語を学んでいました。2月末の攻撃から約2週間がたった頃、ニュースで、日本語学校の有志でつくる「ウクライナ学生支援会」(大阪市)が避難民の受け入れ支援を行っていることを知りました。自宅

は露軍が占拠するザポリージャ原発の近くにあり、現在も砲撃が続いています。上空を飛んでいくミサイルを見て、とにかく逃げようと決意。同会と連絡を取り、ポーランドを経由して4月、1人で来日しました。

現在は、「特定活動」の在留資格を得て、和歌山市が受け入れ、「ウクライナ緊急支援」と称したふるさと納税を活用。市営住宅の無償提供、光熱費や水道代の全額免除、生活支援金などを受けて生活しています。また、アルバイトをしながら、週に4日、市内の語学学校「和歌山グローバルビジネスカレッジ」で日本語を学んでいます。

アレクサンドラさんは、恥ずかしがり屋で、人前で話をするのは苦手。でも「日本の人々に感謝を伝えたかった」と今回の卓話。「先のことは全く見通せないが、日本の人々は親切に接してくれた。もっと日本について学んで、将来はウクライナとの懸け橋になって恩返しがしたい」とは語りました。